第８回パラリンピックソウル大会日本選手団

コーチ及び選手手記

日本身体障害者スポーツ協会

目　　次

1　大会の概要 …… 1 ～

2　ソウルパラリンピック組織委員会への礼状…… 3 ～

3　選手団名簿 …… 5 ～

4　コーチ手記

総監督及びコーチ総括 …… 11 ～
陸上コーチ（車椅子 ） …… 14 ～
陸上コーチ（視覚障害） …… 23 ～
陸上コーチ（その他 ） …… 31 ～
洋弓コーチ …… 36 ～
卓球コーチ …… 40 ～
水泳コーチ …… 45 ～
柔道コーチ …… 51 ～
バスケットコーチ …… 53 ～
その他コーチ …… 60 ～

5　選手手記

陸上選手（車椅子 ） …… 65 ～
陸上選手（視覚障害） …… 75 ～
陸上選手（その他 ） …… 84 ～
洋弓選手 …… 92 ～
卓球選手 …… 96 ～
水泳選手 ……104 ～
柔道選手 ……120 ～
バスケット選手 ……123 ～

大　会　の　概　要

1　大会の概要

期日　　昭和６３年１０月１５日　～　２４日　１０日間

場所　　大韓民国　ソウル特別市

参加　　６１カ国　選手３，０５３名　役員１，１６７名　計４，２２０名

主催　　ソウルパラリンピック組織委員会
（国際ストーク・マンデビル競技委員会、国際身体障害者スポーツ組織、国際視覚障害者スポーツ協会、国際脳性マヒ者スポーツ・レクリエーション協会）

競技種目　１７種目（○印　日本参加）
○陸上競技　○水泳　○アーチェリー　○バスケットボール
ボッチャ　サイクリング　ゴールボール　○柔　道
○ローンボール　パワーリフティング　射撃　スヌーカー
サッカー　○卓球　バレーボール　ウエイトリフティング
フェンシング

2　国別選手数

①　アメリカ　３７６名、②　英国　２４２名、③　韓国　２３９名、
④　西ドイツ　１９３名、　⑤　オーストラリア　１７８名、⑥　カナダ１６２名、
⑦　日本　１４１名、⑧　フランス　１１７名、　⑨　オランダ　１１２名、
⑩　イタリア　１０４名、

3　日本選手団

（選手）切断者（A）	２２名	（男１９名　女　３名）
視覚障害者（B）	２５名	（男２３名　女　２名）
脳性マヒ者（C）	１６名	（男１０名　女　６名）
脊髄損傷（P）、頸髄損傷（T）	６２名	（男４２名　女２０名）
その他の機能障害（L）	１６名	（男１４名　女　２名）
計	１４１名	（男１０８名　女３３名）
（役員）	４３名	
合計	１８４名	
（本部役員）	２６名	
総計	２１０名	

4　日本のメダル獲得数

１位金１６個
２位銀１２個
３位銅１７個
計　４５個
61カ国中16位

5　競技別メダル獲得数

陸上競技	３２個	（金１２個　銀６個　銅１４個）
水泳	２個	（銅２個）
卓球	２個	（銀２個）
アーチェリー	３個	（銀２個　銅１個）
柔道	６個	（金４個　銀２個）
バスケットボール		
男子	１７カ国参加	７位
女子	９カ国参加	５位

ソウルパラリンピック組織委員会への礼状

秋冷の候　益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、第８回パラリンピックソウル大会に際しましては、ソウルパラリンピック組織委員会の皆様をはじめ政府、ボランティアの皆様など大韓民国の関係者に一方ならないお世話様になり厚く御礼申し上げます。お陰をもちまして選手、役員等一同極めて元気に帰国することができました。このパラリンピック大会に参加することができました光栄に感謝しつつ感想の一端を申し述べ御礼にかさせて頂きます。

先ず第１に大韓民国国民の皆様の温かい歓迎でありました。競技場、選手村、街内など何処へ参りましてもどんま人でも我々を温く迎えてくれたことに際し感謝で一杯であります。また各競技場でも多くの人々が応援して下さいましたことなどを忘れることはできません。今後一層韓国に皆様と交流をはからして頂きたいと希望しております。

第２は、大会に際し政府をはじめ組織委員会、ボランティアなど一丸となって大会運営に努力されたことは大会の運営が極めてスムースに行なわれたことであります。競技運営、輸送、選手村どれ一つとっても我々にとって満足の行くものでありました。とくにいまだかってない４，０００名をこす多数の選手役員を迎えての関係者の努力は我々にとって驚異でありました。恐らくすべての国々から感謝の言葉がつきないものと思います。

第３は、競技場設備の整っていることであります。このことによって競技の運営が多くの選手を迎えて予定どおり終了することができた一つの原因ではないかと思います。都市施設も立派でありましたし、広い道路、輸送に当って警察の誘

導等交通混雑する中で行なわれただけに周到な準備と行動力ある行為はともに立派なものであったと思います。壮大な競技施設は世界でも最も立派な施設の一つであると思います。

第４は、韓国選手の健闘であります。身体障害者のスポーツは必ずしも歴史的に余り古くない貴国で経験も十分積んでいないと私ども思っておりました韓国選手諸君の各国選手に混っての健闘は目を見張るものがありました。選手団役員の皆様の一部の意見では地元の有利さを謙虚に申しておられたのは印象的でありました、私達は決してそのようなことはないと思います。選手諸君の努力は本当に見事でありましたし、これをバックアップする役員の皆様の努力によるものであることは疑いのないことであります。是非ともこの成果をふまえて身体障害者福祉の推進に努められるよう祈ってやみません。私どもも貴国を手本に頑張りたいと思います。

最後に大会期間中お会いいたしました組織委員会の皆様が政府支援のもと多数のボランティアの方々をはじめ国民参加のもとに開催されたパラリンピックソウル大会の偉大な成功を心からお祝い申し上げて、重ねての御礼といたします。

財団法人　日本身体障害者スポーツ協会

会　長　　葛　西　　嘉　資

日　本　選　手　団　一　同

ソウルパラリンピック 役員

No	役　職	氏　名	所　属　名
1	団　長	井手精一郎	日本身体障害者スポーツ協会
2	総監督	藤原進一郎	大阪市身体障害者スポーツセンター
3	コーチ総括	三村　一郎	東京都多摩障害者スポーツセンター
4	陸上監督	若菜　常信	東京都障害者総合スポーツセンター
5	陸　上	橋本　定雄	国立塩原視力障害センター
6	陸　上	満田つもる	北海道身体障害者スポーツ振興協会
7	陸　上	増田　和茂	兵庫県社会福祉事業団
8	陸　上	広田　博子	東京都多摩更生園
9	陸　上	井田　朋宏	東京都障害者総合スポーツセンター
10	陸　上	秋山なるみ	東京都障害者総合スポーツセンター
11	陸　上	小林　順一	（社会福祉法人）太陽の家
12	陸　上	高橋　明	大阪市身体障害者スポーツセンター
13	陸　上	吉村　龍彦	大阪市身体障害者スポーツセンター
14	陸　上	河野　章	国立福岡視力障害センター
15	陸　上	熊谷日出夫	国立函館視力障害センター
16	陸　上	加藤　博志	国立身体障害者リハビリテーションセンター
17	陸　上	大胡田茂夫	中伊豆リハビリテーションセンター
18	陸　上	山田　敬蔵	
19	洋弓監督	高橋　寛	（社会福祉法人）太陽の家
20	洋　弓	尾鷲　誠	神奈川県総合リハビリテーションセンター
21	卓球監督	山城　佑三	広島市心身障害者福祉センター
22	卓　球	大久保春美	埼玉県障害者リハビリテーションセンター
23	水泳監督	中森　邦男	東京都障害者総合スポーツセンター
24	水　泳	山本　正子	大阪府立障害者交流促進センター
25	水　泳	吉田　瑞子	東京都多摩障害者スポーツセンター
26	水　泳	浜田　志朗	奈良県立医科大学

No	役　職	氏　名	所　属　名
27	柔道監督	中川　一彦	筑波大学体育科学系
28	柔　道	伊藤　忠一	筑波大学附属盲学校
29	バスケ監督	浜本　勝行	日本車椅子バスケットボール連盟
30	バスケット	水原　由明	東京都多摩障害者スポーツセンター
31	バスケット	北村　昭子	国立伊東重度障害者センター
32	バスケット	金子　幸広	藤沢市立長後中学校
33	その他監督	金田　安正	国立身体障害者リハビリテーションセンター
34	その他	安西　清美	福岡市立障害者スポーツセンター
35	神戸市	並河　隆志	１９８９フェスピック神戸大会
36	神戸市	山田　隆紀	組織委員会事務局
37	医　師	木村　哲彦	国立身体障害者リハビリテーションセンター
38	医　師	牛山　武久	国立身体障害者リハビリテーションセンター
39	医　師	飛松　好子	国立身体障害者リハビリテーションセンター
40	看護婦	天野　節江	国立身体障害者リハビリテーションセンター
41	看護婦	白岩　清子	国立身体障害者リハビリテーションセンター
42	看護婦	安斉　のぶ	国立身体障害者リハビリテーションセンター
43	総　務	茅野　宏明	武庫川女子大学
44	審　判	水田　賢二	国立身体障害者リハビリテーションセンター
45	オブザーバー	澤　貞雄	株式会社チャンピオン
46	オブザーバー	寺岡　敏郎	兵庫教育大学
47	添乗員	井上　博文	株式会社　日本交通公社団体旅行日本橋支店

ソウルパラリンピック（選手）

地	都道府県市	氏　名	性別	年齢	障害名	障害部位等	クラス	勤務先等
1	北海道	若松　勉	男	32	視覚障害	全盲	B 1	国立函館視力障害センター　訓練生
2	岩手県	高橋　孝広	男	18	機能障害	骨形成不全症	L 2	神奈川県身体障害者　職業訓練校
3	宮城県	宇和野康弘	男	33	視覚障害	全盲　８６下	B 1	宮城県立宮城盲学校　教諭
4	秋田県	佐々木富士男	男	24	視覚障害	弱視	B 3	六橋ラドン健康センター
5	山形県	加藤　則夫	男	38	視覚障害	全盲　７１下	B 1	山形県立山形盲学校　教諭
6	茨城県	小倉　利明	男	18	切断	右手関節部	A 8	東北福祉大学
7	栃木県	中村　弘明	男	19	視覚障害	弱視	B 3	栃木県立盲学校　高等部
8	栃木県	兼目　忍	男	41	視覚障害	弱視	B 3	栃木県立盲学校　教諭
9	埼玉県	三浦　明子	女	19	ＣＰ		C 5	(株)ハイカー
10	埼玉県	牛窪　多喜男	男	38	視覚障害	弱視　７８下	B 2	牛窪治療院(自営)
11	埼玉県	大塚　昭一	男	19	視覚障害	弱視	B 3	国立身体障害者リハセン理療教育課程入所者
12	埼玉県	杉山　倍生	男	23	脊損等	脊髄損傷	2	なし
13	埼玉県	竹村　克明	男	17	脊損等	脊髄損傷	4	狭山市障害福祉課
14	埼玉県	三田　幸男	男	30	視覚障害	弱視	B 3	国立身体障害者リハセン理療教育課程入所者
15	千葉県	須藤　健一	男	17	脊損等	脊髄損傷	4	千葉県立袖ケ浦養護学校　高等部2年
16	東京都	塚本　昇司	男	21	ＣＰ		C 8	山一証券　池袋支店事務課
17	東京都	立河　慎次	男	21	ＣＰ		C 4	福祉事業センター
18	東京都	小林　和代	女	28	ＣＰ		C 6	なし
19	東京都	尾崎　峰穂	男	24	視覚障害	弱視	B 2	なし
20	東京都	小野　恵美子	女	17	視覚障害	弱視	B 2	なし
21	東京都	大束　導正	男	18	視覚障害	弱視	B 3	
22	東京都	青木　裕	男	30	視覚障害	弱視　９５下	B 3	国立小児病院　整形外科理学療法室
23	東京都	伊藤　由美	女	22	脊損等	脊髄損傷	2	日本信販　電算部運用管理課
24	東京都	石井　孝夫	男	23	脊損等	脊髄損傷	3	品川区　大崎図書館
25	東京都	内山　純二	男	39	脊損等	脊髄損傷	3	(自営業)
26	東京都	坂内　留美	女	29	脊損等	ポリオ	4	港区区南福祉事務所
27	東京都	稲垣　光男	男	33	機能障害	骨形成不全症	L 2	福祉事業センター
28	東京都	佐野　由幸	男	35	機能障害	両下肢不完全	L 4	(株)多摩義肢装具製作所
29	東京都	高梨　秀夫	男	40	機能障害	片下肢ポリオ	L 6	(自営業)
30	東京都	堀内　正伸	男	25	視覚障害	弱視	B 2	国立身体障害者リハセンター
31	東京都	南　浩一	男	31	脊損等	頸髄損傷	1 B	(有)東光
32	東京都	小池　満美	男	39	脊損等	ポリオ	5	福祉事業センター
33	東京都	新井　常美	女	32	脊損等	脊髄損傷	5	東京都福祉局指導部指導一課
34	神奈川県	渡貫　美智代	女	20	脊損等	脊髄損傷	3	(株)ニフコ　電子事業部表示装置開発課
35	神奈川県	金沢　一美	男	34	脊損等	脊髄損傷	2	東京精工(株)　生産部製造課
36	新潟県	山田　寛美	男	17	機能障害	骨形成不全症	L 2	新潟県立新潟養護学校　中学部(学生)

地	都道府県市	氏　名	性別	年齢	障害名	障害部位等	クラス	勤務先等
37	富山県	橋場　喜市郎	男	23	脊損等	頸髄損傷	１Ｃ	(株)日産クレジット
38	福井県	山本　裕一	男	22	切断	左下腿	A 4	奥義肢製作所
39	福井県	坂口　一男	男	35	切断		A 7	児玉印刷(株)
40	長野県	加藤　正	男	18	切断	左大腿	A 2	セイコーエプソン(株)試験チーム
41	長野県	有賀　正	男	19	視覚障害	弱視	B 2	諏訪隆立盲学校　高等部(学生)
42	長野県	松井　順一	男	37	脊損等	脊髄損傷	5	(自営業)
43	長野県	平沢　三七	男	38	脊損等	ポリオ	5	長野県身体障害者リハセンター
44	静岡県	宮崎　健	男	35	切断	片前腕	A 8	伊豆急行(株)　伊豆高原駅務区
45	静岡県	長島　秀明	男	26	脊損等	脊髄損傷	3	東京都職員共済組合　浦瀬病院
46	愛知県	岩月　富士雄	男	46	切断	左大腿	A 2	(有)豊和事務機
47	愛知県	鈴木　敬乃	女	32	切断	左大腿	A 2	(株)岡崎竜城スイミングクラブ
48	愛知県	高須　幸司	男	35	脊損等	脊髄損傷	2	(株)丸幸製網所
49	岐阜県	本間　裕幸	男	34	切断	片上腕	A 6	豊田通商(株)　資材外注管理部外注管理課
50	三重県	内谷　喜久雄	男	39	機能障害	左上肢完全	L 6	鳥羽郵便局
51	滋賀県	知念　悟志	男	41	切断	両前腕	A 7	大津市営駐車場管理員
52	滋賀県	八田　智洋	男	46	切断	片下腿	A 4	JR東海旅客鉄道KK　東海京都駅
53	大阪府	高田　義昭	男	37	切断	右大腿	A 2	(株)大和銀行　泉北支店
54	大阪府	小桜　正明	男	43	切断	右足関節部	A 4	ダイキン工業(株)　機製作所金岡工場
55	大阪府	岩崎　剛	男	25	脊損等	脊髄損傷	3	(自営業)
56	大阪府	藤田　真理子	女	23	ＣＰ		C 8	(株)メイテック　西部事業部教育訓練室
57	奈良県	井上　佳宥	男	40	脊損等	脊髄損傷	4	大床義肢製作所
58	奈良県	金堂　恵子	女	23	ＣＰ		C 6	なし
59	奈良県	茂木　秀昭	男	26	切断	片上腕	A 6	天理教　国内布教伝道部福祉課
60	兵庫県	松井　直樹	男	29	ＣＰ		C 8	阪電不動産(株)伊丹支店　北伊丹出張所
61	岡山県	鹿島　了介	男	35	機能障害		L 5	福本義肢製作所(株)
62	岡山県	松林　美香	女	17	機能障害	両下肢完全	L 3	岡山養護学校　高等部(学生)
63	岡山県	岡田　真紀	女	20	ＣＰ		C 8	亀池徳寿(有)
64	広島県	小丸　裕子	女	30	切断	右大腿	A 2	なし
65	広島県	福場　道子	女	40	脊損等	ギランバレー	2	なし
66	広島県	藤井　成巳	男	36	脊損等	頸髄損傷	１Ｂ	なし
67	山口県	冨川　文男	男	36	脊損等	脊髄損傷	2	(有)メディカルサービス
68	徳島県	斎藤　正一	男	21	視覚障害	弱視　９５超	B 3	徳島県立盲学校　理学療法科3年
69	愛媛県	佐伯　修三	男	34	機能障害	片下肢不完全	L 5	佐伯誠友院(自営)
70	高知県	蒲原　武	男	18	脊損等	脊髄損傷	5	国立身体障害者リハセンター
71	福岡県	志賀　昌夫	男	36	切断	右下腿左大腿	A 1	(株)ベストサービス技術集中センター
72	佐賀県	吉ヶ江　隆	男	17	ＣＰ		C 7	佐賀県立金立養護学校　高等部(学生)
73	佐賀県	久保　和代	女	37	脊損等	ポリオ	4	鳥栖双葉保育園　非常勤事務員

No.	都道府県市	氏　名	性別	年齢	障害名	障害部位等	クラス	勤務先等
74	佐賀県	吉田　重利	男	35	脊損等	脊髄損傷	4	エスライン羽島
75	熊本県	山本　行文	男	33	脊損等	脊髄損傷	4	熊本機能病院
76	熊本県	橋本　卓也	男	48	脊損等	脊髄損傷	4	なし
77	大分県	前田　いつ子	女	28	脊損等	ポリオ	3	前薬歯科医院
78	大分県	椎　政憲	男	32	ＣＰ		C　4	ソニー太陽（株）
79	鹿児島県	南　幸男	男	24	視覚障害	全盲	B　1	医療法人　仁愛会病院
80	鹿児島県	上野　修蔵	男	44	機能障害	右下肢不完全	L　6	鹿児島松下電子（株）
81	札幌市	鈴木　正剛	男	19	切断	両大腿	A　1	国立身体障害者リハセン　入所生
82	横浜市	上杉　惇	男	51	視覚障害	全盲	B　1	横浜市立盲学校　教諭
83	横浜市	田代　清隆	男	22	ＣＰ		C　8	横浜信用金庫　生麦支店
84	川崎市	小野寺章彦	男	28	脊損等	頸髄損傷	1 B	（財）川崎市身体障害者福祉団体協議会
85	名古屋市	杉浦　秀雄	男	31	切断	右大腿	A　2	愛知県運転免許試験所免許証係
86	名古屋市	柴山　英志	男	32	機能障害	片下肢完全	L　5	放送義肢製作所
87	名古屋市	野川　喜生	男	29	視覚障害	弱視	B　3	愛知県立名古屋盲学校専攻科
88	京都市	藤田　扇	女	25	ＣＰ		C　4	京都府立総合資料館　庶務課経理係
89	大阪市	藤井　博	男	39	切断	左大腿	A　2	大阪四天王寺郵便局
90	大阪市	新川　誠	男	31	視力障害	弱視　６０下	B　2	大阪府立盲学校　専攻科理学療法科2年
91	大阪市	大堰　豪志	男	29	ＣＰ		C　6	大阪市西区老人福祉センター
92	大阪市	森尾　光隆	男	35	ＣＰ		C　6	大阪市公園局
93	大阪市	桑村　成子	女	26	機能障害	両股関節	L　4	野村証券（株）　総務部庶務課
94	大阪市	中村　正則	男	38	脊損等	脊髄損傷	5	日本電炉（株）　設備事業部技術4課
95	大阪市	林　誠二	男	19	脊損等	脊髄損傷	5	大阪市立職業リハセン　訓練生
96	大阪市	中村　博之	男	29	脊損等	脊髄損傷	4	住之江区　福祉事務所
97	大阪市	松尾　元春	男	26	脊損等	脊髄損傷	2	（有限会社）三和印章
98	大阪市	山口　悟志	男	30	脊損等	脊髄損傷	5	藤原運輸（株）
99	大阪市	三島　康幸	男	33	視覚障害	弱視	B　3	岸和田市民病院
100	大阪市	平井　玲朗	男	61	視覚障害	弱視	B　1	（自営業）
101	大阪市	和田　行博	男	39	機能障害	片下肢不完全	L　6	才門建設（株）
102	大阪市	秋山　一秀	男	48	機能障害	リュウマチ	L　1	大阪メータ製造ｋｋ
103	大阪市	野崎　輝男	男	39	脊損等	脊髄損傷	3	兵庫県西宮財務事務所（地方公務員）
104	神戸市	川田　真貴子	女	30	切断	左大腿	A　2	神戸市東灘区役所　市税課
105	神戸市	永尾　嘉章	男	24	脊損等	ポリオ	4	県立身体障害者高等技術専門学院
106	神戸市	蒲生　明美	女	21	視覚障害	弱視	B　2	佐藤整形外科診療所
107	神戸市	藤川　泰博	男	37	脊損等	脊髄損傷	4	中西電機（株）
108	神戸市	岡西　三千夫	男	37	脊損等	脊髄損傷	5	三幸宝飾
109	神戸市	長田　芳秀	男	27	切断	片大腿	A　2	神戸市兵庫区役所　課税課市民税係
110	広島市	大谷　浩道	男	28	視覚障害	弱視	B　3	向井麻酔科外科医院

No.	都道府県市	氏　名	性別	年齢	障害名	障害部位等	クラス	勤務先等
111	広島市	沖本　昭彦	男	31	機能障害	左下肢不完全	L　6	広島市安佐北保健所
112	広島市	高岡　広明	男	32	機能障害	片上肢不完全	L　7	広島県　環境保健部医務薬務室係
113	北九州市	比良　裕二	男	23	切断	右上腕	A　6	住建福岡（株）
114	北九州市	礎　真一	男	35	視覚障害	弱視　６５下	B　2	福岡県立北九州盲学校　教諭
115	北九州市	稲田　幸二	男	29	ＣＰ		C　5	（自営業）
116	福岡市	寺尾　芳隆	男	34	ＣＰ		C　6	福岡市城南区役所　総務部市民課記録係
117	福岡市	松枝　滋子	女	34	脊損等	ポリオ	5	九州松下電器（株）　総務部総務課
118	福岡市	今泉　千春	女	31	脊損等	ポリオ	4	福岡県警察本部　総務部総務課
119	福岡市	戸内　久子	女	34	脊損等	ポリオ	4	九州松下電器（株）　総務部庶務係
120	東京都	多智　利枝	女	40	脊損等	体幹障害	4	東京都多摩障害者スポーツセンター
121	神奈川県	星野　素子	女	40	脊損等	脊髄損傷	3	逗沢市民病院
122	大阪市	坂元　りつ子	女	37	脊損等	ポリオ	2	なし
123	茨城県	北島　郁美	女	26	脊損等	脊髄損傷	3	日本航空（株）システム第一部　開発第三課
124	長崎県	村井　佐千子	女	23	脊損等	脊髄損傷	2	佐世保市役所　社会福祉事務社係
125	大阪府	倉田　雅美	女	31	脊損等	脊髄損傷	2	（株）住友銀行　システム部企画第二課
126	高知県	森田　俊子	女	36	脊損等	ポリオ	2	高知中央郵便局
127	神奈川県	塚本　京子	女	28	脊損等	脊髄損傷	2	なし
128	石川県	上村　知佳	女	22	脊損等	脊髄損傷	2	国立身体障害者リハセンター　（入所者）
129	東京都	酒匂　順子	女	25	脊損等	脊髄損傷	1	（株）西友　光が丘西武店
130	神奈川県	土屋　武司	男	26	脊損等	脊髄損傷	4	日本航空（株）　東京支店
131	奈良県	新谷　広文	男	25	切断	片大腿	4	シャープ（株）　情報システム事業部
132	奈良県	吉田　育之	男	25	脊損等	脊髄損傷	3	（株）北島嘉次郎商店　大阪営業所
133	東京都	星　義輝	男	39	脊損等	ポリオ	２５	（株）北島嘉次郎商店
134	神奈川県	富田　謙一	男	33	脊損等	脊髄損傷	3	東京精工（株）　生産部製造課
135	千葉県	萬崎　勲	男	33	脊損等	脊髄損傷	3	（自営業）
136	大分県	徳永　祐政	男	32	脊損等	脊髄損傷	3	ソニー太陽（株）
137	神奈川県	伊藤　俊之	男	30	脊損等	脊髄損傷	2	東京精工（株）　生産部製造課
138	佐賀県	伊藤　平太	男	33	脊損等	脊髄損傷	2	（自営業）　伊藤商会
139	東京都	岸野　功	男	35	脊損等	ポリオ	2	（有）光栄写真製版
140	東京都	木下　亨	男	30	脊損等	ポリオ	2	東京都小平都税事務所
141	千葉県	小瀧　修	男	33	脊損等	脊髄損傷	1	浦安市役所　保健福祉部児童家庭課

コーチ手記

総監督　　藤原　進一郎

他の役員から報告も出されるので、なるべく重複しない部分をまとめておく。

1．選手選考

2次エントリー（種目別に人数を記入）の締切が1月1日。最終エントリーが7月15日という中で、各県等からの推薦締切を12月25日とし、1月12日に選考会議を開いて書類選考（約100名の選手と45名の補欠）し、ソウルに遅れる旨ことわってはあったが、補欠も含めた選手ですぐ2次エントリーを行なった。ところが日本選手団の経費上の見通しがこの時期では立てにくいことと、ソウルより2次エントリーの結果、約1200名程度削減しなければ受け入れができないので、約15％のカットをしてほしいとの通知があった。

そこで、4月1日、韓国の正立会館でのセミナー出席を利用して組織委員会に趙事務総長、鄭競技本部長を尋ね、145名の全員受け入れを依頼した。その後8月2日、井手常務理事、三村技術委員会副委員長と3名で伺い、李組織委員長に重ねてお願いをした。その時の結論は、8月20日に開かれるICCの会議に、組織委員会として日本の受け入れの承認を求めるということであった。この好意に一るの望みを託し、もし約20名のカットをしなければならなくなった時の責任の取り方を考えながら、ソウルからの連絡を待った。8月末、やっと全員受け入れるとの連絡に、ソウル大会の大半が終わったような、ほっとした気持であった。

こうした裏で4ケ国以上の参加のない競技（脳性麻痺のハンドボールと視覚障害のレスリング）や種目（約1300弱が800以内）が成立しなくなり、わが国からも希望した種目に出られない選手も出ていたわけである。

2．クラス分け

最初のクラス分けは身体障害者手帳取得時であり、全国大会を経験しておれば、その出場時にも受け、国際大会の推薦資料にもチェックされて出て来ているわけである。ましてや、バスケットボール等はその他にも何回かチェックされているのではないか。こうした中で、2次の選考合宿時に不適格として落した選手が出たのは残念であった。（本人は納得し、正いクラスで再度挑戦すると約束してくれた。）

大会直前のチェックでの変更は約0．5％以下であり、わが国のクラス分けは非常に正確になされており、むしろ、ソウルでの判定におかしな変更もあったように思う。

卓球でおこった機能障害の選手に対する他国からの抗議で、再チェックを求められ訂正された事件があった。これは、正式な抗議手続きがなされてなければ受付ける必要がないとして、山城、大久保両氏に強く指示し、大へんな苦労をかけた。お二人には現場にも出かけず電話での指示で不愉快であったこととおわびがしたい。このケースも、他国の選手のクラス分けに対する正式の抗議のケースとして、よい経験であった。

しかし、選手やコーチにもクラスの変更を単に「 儲けた 」というような感覚でとらえている場合があるのではないだろうか。また、正確なクラス分けではないと思いながら、メダルを獲得した選手がいたとしたら、儲けたでよいのだろうか。反省し、周囲の状況を十分みきわめてみる時期であろう。こうしたケースは、全国大会においてもかなりひどいものであり、大会記録と言われても到底納得できるものではないケースもある。

3．初日の混乱

感激に浸った開会式の翌日、陸上競技と水泳から帰った監督やコーチの当惑は大へんであった。この混乱はどこにあったのだろうか。確か3年前、鳥取の全国大会の視察に来た韓国の競技団体は、初めて障害者のスポーツに接しられる感じであった。また、アジア大会、オリンピックと経験された人たちにとって、国際大会の運営経験は十分であったと思う。ところが、障害のある人たちに接すること、ましてや、これらの人たちの競技会の経験が乏しく、そこへ、ＩＣＣ傘下の役員が中途半端な形で入り込んだ結果だと思われる。ＴＤの能力に最も大きな問題があったと思われ、われわれ身体障害者のスポーツの指導者と言われる者は、それぞれの競技運営についての勉強を忘れてはならないと思う。

4．監督・コーチ

実質４３名の役員によって大会に望んだ。途中で多少の片寄りを感じたが変更の勇気もなく、申しわけないと思った人たちもかなりあった。愚痴一つこぼさず頑張っていただき感謝にたえない。

幾度かの体験から見通しの立つ人、そして、その場その時を一生懸命やってくれている人、もしもう一度同じ大会の役員を編成しようとしたら、どこをどう変えればよいのだろうか。自分では、あれもこれもやり残したと思うことがあるが、一人ひとりの監督やコーチの皆さんへの注文があるわけではない。

皆さん本当にありがとうございました。

ソウルパラリンピックに参加して

コーチ総括　　三村　一郎

ソウルパラリンピック組織委員会からの、日本選手団受け入れ規模についてはっきりしないまま、６３年１月選手の選考が進められた。選考にあたり今大会初めての試みとして、種目別団体からの推薦を受け入れた。３月に入り第１次の合宿を、５月に２次、３次と各競技別に進め全選手の障害の確認、エントリーの決定、選手とコーチのコミュニケーション等に気を使い進めた。

８月大会２ケ月前、相変わらず日本選手団の受け入れについて組織委員会からの決定が知らされず、井手団長、藤原総監督と共にソルパラリンピック組織委員会委員長に、日本選手団１８０名程度の受け入れをお願いに行った。

９月、１８７名の日本選手団の受け入れを承諾、出発１ケ月前に漸く決定することができた。

準備の段階では選考、合宿についてはそれぞれ苦労はあったが、大きな問題を残さず進めることができた。しかし、なんと言っても日本選手団の決定が出発寸前までできなかったことは、言葉にだすことのできないほど苦しいことであった。

出発にあたっては現地での受け入れが滞ることのないように先発、東京、大阪、福岡と４組に分けた。

大会組織委員会は、予想をしていた以上に混乱をした。特に、ドクターチェックでは、各国選手のクラスが大幅に変更がなされたため、競技スケジュールが間にあわず、日本選手団は連日四苦八苦する中で各競技に選手を参加させた。

大会期間を通し各コーチは、連日の混乱の中で選手を良く統率し、各競技を最高のコンディションで臨ます努力など、体力的消耗の激しい中で良く耐えて頑張った。

日本選手団として選手はともかく、コーチは大会毎に資質と指導技術の向上が見られ国際大会コーチとして相応しい方向に進んでいることは大変喜ばしいことであった。

メディカルチェックによりクラス変更された選手について、クラス分けが違うという内容であり、この選手のメディカルチェックを担当したドクターも選手の試合を観て自らの間違いを認めたと記されてあった。

選手村のメディカルセンターで再チェックを行なった結果、イギリスチームの抗議は認められ、ＴＴ５の団体戦は代替選手不在のため棄権することとなった。

６．まとめ及び反省

① 選手の自己管理能力が高く、監督・コーチとも本来の役割に徹することができた。

② クラス分けについてのプロテストがあったが、対象となった機能障害の選手についてＴＴ４～ＴＴ７のクラスの狭間にあたるようなケースであり、クラス分けの厳しさを感じた。今回のことから、担当コーチが必ず立会い、チェックの内容を確認すべきであったこと、クラス分けのあった選手についてはチームドクターに報告しなければならなかったことを反省する。

③ クラス分け及びプロテストについての知識を十分に持っていなかったため、プロテストされた時の対処に戸惑い、関係の方々にご迷惑をおかけしたことを深く反省いたします。

④ 大会前の準備状態において、ルール等で不明瞭な点が多く、エントリーについて不安を抱いてソウル入りしました。幸い、大きなトラブルもなく競技に参加することが出来、また、卓球コミッショナーである朴道天氏（大韓卓球協会　国際理事）の、日本チームに対するご援助は大変心強いものであった。

⑤ 今回、卓球チームを編成し参加できたことは大変意味のあることと思う。卓球のような球技では国際試合に向けての目標が立てにくいが、今回参加した役員、選手１４名が体験したことを今後に土のように生かしていくかが課題になると思う。

最後に、ソウルパラリンピック選手団の一員として貴重な体験をさせていただきましたことを、深く感謝しておりますまた、不慣れな点が多く山城監督や選手、並びに多くの方々にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

そして、リハビリテーション領域で体育指導をしている私にとって、指導者としての甘さを痛感した大会でした。リハビリテーションの課程で、ほとんどの障害者に卓球を導入していながら、障害者の持つ可能性について、何故もっと追求してこなかったのだろか。「歩行はクラッチ歩行で不安定」と形容されるような脳性麻痺の者でも、その卓球は素晴らしいものでした。一見不安定のようで実に安定した素早いフットワーク、力強いスマッシュ、せり合った際の粘り強さ等々、うまく表現出来ませんが、これぞ障害者スポーツと言えるようなゲームが、いまでも深く脳裏に焼付いています。

選手の皆さん、素晴らしい卓球を観せていただきありがとうございました。身障スポーツの導入部を担う私にとって、この経験と感動を今後に生かしたいと思います。

ソウルパラリンピック水泳競技報告

水泳監督　中森　邦男

はじめに今回のソウルパラリンピックにコーチとして参加する機会を得たことに対して感謝いたします。

水泳競技は８日間にわたり、２会場（切断、機能障害、下半身マヒ者はソウル．スポーツコンプレックス、ＣＰ、視覚障害はオリンピック公園）で実施された。日本選手は３６名（内４名は他の競技と兼ねる）参加し、銅メダルを２つ獲得した。以下、項目に分けて報告する。

【メディカル・クラスフィケーション】

日本から申込みしたクラスが変更になった者は５名であった。

（Ｌ４⇒Ｌ６．Ｌ４⇒Ｌ６．Ｌ３⇒Ｌ５．Ｂ３⇒Ｂ２．Ｃ８⇒Ｃ６．但しＢ３、Ｃ８についてはそのままエントリーした。両下肢機能障害でＬ４でエントリーしたが、筋力的に問題がないとみなされ、本来であれば参加できない障害であったがＬ６と診断された。）

＊ Ｌ６の男子１００Ｍ自由形が４名になったが、メディカル・クラスフィケーションの変更であった為に４名の参加がＩＳＯＤのＴＤ（アドバイザー）に認められた。

＊ ＣＰは実技が行なわれ、ＣＰ－ＩＳＲＡの数名の役員の協議によりクラスが決定された。

【会場】

オリンピック会場の２つの５０ｍプール（タクシーで１０分位）が使用され、観客が１０，０００人位入れるりっぱなプールで、常に満席に近い状態で競技した。

２５Ｍの競技（脊髄損傷者）は５０ｍプールを横に使用し、コースロープを排水溝のふたにフックをかけていた。

２つのプールとも選手席が用意され、観戦と休憩を取ることができた。

練習用のプール、召集場所等競技会場の近くにあり、スムーズに流れた。

【ミーティング】

競技２日前に、４つの団体で合同で会議が行なわれ、水泳全体の流れの説明があった。特に問題になったのは、参加人数がメディカルクラスフィケーションにより少なくなった場合、競技が成立するのか否か、その場で結論は出なかった。しかし、実際は切断の競技でＩＳＯＤのＴＤの判断により２名で競技をさせ、１位のみの表彰をした。

ＩＳＯＤとＩＳＭＧＦは毎日、競技開始前にミーティング行ない、その日の競技の確認（参加者の有無等）、問題などの協議をした。メディカルクラスフィケーションで変更したために、再エントリーした選手の名前がプログラムになかったり、組織委員会と４団体との連絡がうまく取れていなかった面が多く、競技当日の朝コーチとの話合いで時間を取られ大変に神経をつかった。

【プログラム】
当日のプログラムは、午前８時３０分に選手村で渡されることになっていたが、競技会場でその内容が変更になったりして、午前中はスケジュールがたびたび変更（新たに予選を行なったり、予選がなくなったりした）になった。
日本選手団の対応は、競技の予定が午後の遅い選手は、選手村で待機し、その日のスケジュールがほぼ決まってから、水泳会場から連絡を受け選手に連絡した。

【ルール上特筆する点】
- 下肢切断の平泳ぎでドルフィンキックをしていた。
- 両上腕切断の背泳ぎのスタートでスタート台に「ひも」を口にくわえスタートした。
- 視覚障害者のターンとゴールでコーチが、１．５m位の棒の先に丸いスポンジのついたもので選手の頭を押えて知らせていた。
- スケジュールの変更で予選が行なわれたが、１人遅れ１人で泳いでその選手が決勝にのこった。予選の８位の選手は端のコースで泳いだ。

【水泳チーム】
今回のソウルパラリンピックは、日本選手団は１８４名となり、コーチのミーティングは各競技ごとに分かれた。水泳チームの連絡は次のようにした。

日本チーム → コーチミーティング → 選手代表（各部1名） → 選手（部ごと）
監督会議

その他、毎朝７時に集合してその日の連絡や選手の状態を把握した。

【日本選手と欧米選手】
日本選手は、障害者スポーツは福祉行政からようやく種目競技団体が育ってきた段階で、競技スポーツとしての水泳競技を練習している選手はまだまだ少ないように思える。しかも、今回銅メダルを獲得した選手は、障害者スポーツセンターで育った選手で、健常者にまじって一般の施設で練習している選手は数名だけであった。そして、年齢的にも高く、成人に達してから本格的にトレーニングした選手が多い。
欧米は、障害者を含めた社会の中で、地域の一般施設で健常者と一緒に練習している選手がほとんどであり、しかも、年少の頃から水泳を始めている。脳性マヒの選手の中には、陸上の動きからは想像できない水中動作をしている者が多かった。

【今後の課題】
パラリンピックの優勝記録を見ると４年間で大幅に更新された競技が多く見られ、年少時からの計画的なトレーニングがなければ、このような記録が生まれてこないように思えた。
日本選手がこの記録を目標にし一歩でも近づくために、次のようなことがあげられる。
１．障害者のスポーツを健常者に知ってもらう。
競技会を通して一般の組織に知ってもらう。（マスコミ、健常者のボランティア）

２．現在日本で行なわれている障害者水泳大会の障害区分（クラス）を国際大会に準じて行なうこと。
できなくても、国際のクラスに連がるチェックだけは必要。日本身体障害者水泳連盟に働きかける。
３．計画的なトレーニング（最低週３回２時間以上）ができる施設の確保。
障害者スポーツセンターに理解、協力して頂くように働きかける。
４．健常者の大会に出場している障害者の把握。
一般の組織に協力して頂く。
５．日本代表選手の選考を競技主体に考える。
都道府県市からの推薦だけでなく、競技種目団体からの推薦を考える必要がある。

ソウルパラリンピック大会に参加して

水泳コーチ　山本　正子

はじめに、ソウルパラリンピック大会に幸運にも、日本選手団の水泳コーチとして参加する機会を与えて下さった、関係者の皆様、及びご指導下さいました役員、コーチの方々に、この場をお借り致しまして、お礼申し上げます。
スタート合図が鳴り、各国の選手が一斉に飛込み、見事なストロークで泳ぎゴールしてみると、電光掲示板には考えられないタイム表示、今までは報告書等で予想はしていたが、目の前でこんな記録を出されてはと思いながら、自分自身が選手になった様に胸の鼓動が高まりました。そんな興奮も束の間、いよいよ日本選手の４００M自由形の出場、飛び込んでーストロークでトップ選手と２Mの差が開き、ゴール時点では７５M引き離されてのゴール、体格、体力の差はもちろん、国際大会に参加する意識の違いがこの様な結果として表れたように思いました。
アメリカでは一日平均４０００～５０００Mのスイムとウエイトトレーニングを毎日行なっていると聞き、やはりアメリカなどは、参加することに意義があるのではなく、１人ひとりがメダルの獲得に来ているといった姿勢が感じられました。又、コーチの役割であるが、今回のように会場が２ケ所に離れ、コーチは２名づつ、そのうえ、競技運営にまとまりがなく、当日の競技開始にならないとプログラムが分からない状態のためコーチとしては、その連絡を取ることに手が取られ、実際競技会場での選手たちの管理がどれだけ出来たか疑問でした。又、選手たちも１日のコンディション作りが大変であり、せめて、確定した競技予定時間を前夜までに知らされておればと思いました。
最後に、コーチ役割が切断のため、脳性麻痺者、視覚障害者の競技が見られなかったことが、非常に残念でした。又、大会を振り返ってみると、毎日が色々な出来事があり、今までは先輩の体験話で終わっていたものが、実際自分自身が体験することで、本当に大変であったことを痛感しました。これからは、この貴重な財産を今後の障害者スポーツ指導に役立てて行きたいと思います。

ソウルパラリンピックに参加して

水泳コーチ　浜田　志朗

コーチとしてソウルパラリンピックに参加させていただき、充実した日々が送れたことに深く感謝いたします。

ソウルパラリンピックの感想をいくつかの視点から述べてみたいと思います。

1．開閉会式を通して

開閉会式の大観衆、オリンピックと同じ運営内容、各競技場における観客の動員が一段とパラリンピックのムードを高め、好記録が続出した。

聖火をもつ母親の車椅子を押す子どもの姿、車椅子の人達のマスゲーム、盲人歌手のすばらしい歌声、胸があつくなるような演出であった。

選手役員団のユニフォームの中でも、オーストラリア、ドイツ、フランス、アメリカなどの国々のものが目についたが、日本も（許された範囲の中で）ファッションにもう少し関心をむけても良いのではなかろうか、、、、。

盲人の選手たちを連れてきていたソ連チームも印象的であった。

2．パラリンピックの報道

日本ではソウルパラリンピックが開催されていることを知らない人があまりにも多く、報道関係への働きかけが大いに必要であると思われる。また、パラリンピックに参加する費用を国、県レベル、後援会等からの援助金だけでなく、「パラリンピック参加募金」など市民レベルの活動で少しでも多くの選手たちに世界大会の経験をしてもらえるようになればと思う。

3．クラス分け

脳性まひ、機能障害のメディカルチェックに立ち合せてもらったが、クラスが変更になり精神的に動揺し、後の競技力に支障をきたした選手が数名いた。競技期間中にクラス分けの検討会がもたれたいたが、日本において、コーチによる「クラス分け」に関する会議、研修会等を多くもっていただきたい。また、障害別に専門のドクター、コーチを養成することも必要であると思われる。

脳性まひのクラス分け（水泳出場選手だけ）で実際にプールで泳がせて、クラス分けがあったが、日本でも陸上と水中でも両面からクラス分けが出来る技術、能力を身につけたいものである。

4．重度障害者の参加

重度障害者を参加させていた国に、アメリカ、イギリス、スウェーデン、オーストラリア、カナダ、ポーランド、デンマークなどの国々があった。食事、移動、身辺処理等の介護面でコーチ達は大変な様子であったが、彼らはパラリンピックに参加出来ることを誇りに思い、いきがいや自信につながると強調していた。今後日本も脳性まひをはじめ重度障害者にも世界大会に参加できるチャンスを与えたいものである。

5．脳性まひの競技

脳性まひの競技で参考になったものにボッチャボール、自転車競技（三輪車）、サッカー、陸上（電動車椅子の競技）、水泳等がある。

今後脳性まひのスポーツをもっと活性化するためにＣＰ－ＩＳＲＡのルールやボッチャボール、Ｗ／Ｃサッカー、三輪車、陸上競技（ビーンズバック投げ、スラローム等）、水泳等の競技を全国養護学校、スポーツセンター、福祉センター等に普及させていきたいと思う。また、“ Sport for all ”の意味からも「ボッチャボール」のように重度脳性まひ者が参加できる種目やレクリエーション種目の導入も今後の検討事項であると思われる。

6．水泳競技

水泳の合宿（４月）後、選手からの練習内容、コンディションの報告が随時あり、滋賀県での強化練習（７月）、日本身体障害者水泳選手権大会（９月）で調整段階が把握でき、選手達のソウルでのコンディションがよくつかめた。

オリンピックで使用したプールでの競泳ということで選手、コーチ共に興奮し大観衆の前で視覚障害、脳性まひの選手達の多くが自己新記録で長水路を泳いだこと、水泳チームとしてよくまとまっていたことは称賛されてよいと思う。

なかでも、外国選手と比べひとまわりも体格の小さい大堀君（Ｃ６）の５０Ｍ平泳ぎ（４９”３４　3位）、戸内さん（クラス４）の４００Ｍ自由形　（７’５８”３６　3位）はあまりにも感動的であった。

脳性まひにおいても世界の強豪は５歳くらいから水に親しみ、１５～１６歳くらいから競技の世界に入り、ウエイトトレーニングで体をしぼり、一般のプール施設で練習をしているという。現在、私達が行なっている幼児、小学生からの水泳指導は明日につながるものであると自信がもてた。

試合前の選手へのマッサージ法、音楽を使用してのリラクセーション、リズムの取り方、アップ方法、全盲者のターン、障害や機能レベルに応じたスタート方法、障害別（特に重度障害者）の自由形の泳法など、非常に参考になるものばかりであった。

金メダル１２個をとったアメリカのＺＯＲＮ　ＴＲＩＳＣＨＡ（Ｂ２）の素晴らしい泳ぎ、ＺＯＲＮと共に泳ぎ四種目を自己新記録で決勝まで進み入賞をはたした蒲生明美さんのがんばり、四肢欠損で自由形１００Ｍを　２’２３”５９　で泳ぎ、車椅子と杖を使ってフルマラソンに挑戦したことのあるというイギリスのＨＵＬＬ　ＰＥＴＥＲ（Ｌ１）の勇姿、そして、超満員の観衆の前でファイナルレース、４００Ｍリレー決勝を泳いだ日本チーム（神本、高梨、加藤、和田）の力泳ぶりはいまでも胸に熱く焼きついている。

「 運動の最大の効用は、ハンディを持つ人達に大きな自信と生きがいを与えることだ 」とソウルパラリンピックにコーチとして出場させていただき、世界の障害者をみて感じる次第です。ソウルでの感激、感動を多くの人達に伝えると共に、これからの選手をもっと多く育ててみたいと思います。

最後にソウルパラリンピックにおいて日本チームが無事最善の力を発揮出来たのも大会関係者、役員、コーチの方々の「 和の力 」であると思います。

水泳コーチ　吉田　瑞子

世界大会参加も初めてなら、海外に出るのも初めてで、いったいどんなことがあるだろうと期待感いっぱいで出発しました。ところが、送迎用のバスが選手村に着いたとたん、フェンスに囲まれた建物とものものしい警備に早くも後ずさりしたくなりました。

競技が始まってからは、英語がわからないとか、場所がわからないとか、プログラムはどうなってるかなんて言ってはいられません。かなりいい加減な和製英語を駆使して、朝早くから夜遅くまで、競技場と選手村間を走りまわったという感じです。ラッキーなことに、水泳班には経験豊富なスタッフが多かったので、安心して行動することができました。

１０日間の日程を終えて、主に次のような事が心に残りました。

① すばらしい体格の選手が多かった。切断や視覚障害の選手はもちろんのこと、脳性まひの選手にも、どうやって筋肉をつけたのかしらと思うような例があった。日本選手は体づくりからやり直す必要がある。

② 記録は世界のレベルと比べると、まだまだ劣る。しかし、自己ベストを更新した選手が多かったので、成績としては満足できるものだった。

③ 外国選手には競技選手としての強い意識があるように感じられた。聞くところによれば、一般のプールで毎日のように泳いでいるとのこと。私達は彼らの持つ競技者としての意識を見習うと共に、練習内容、量の見直しをする必要がある。また、障害者スポーツの先進国での社会の障害者の受け入れ姿勢（大変、大げさですが）も見習う必要がある。

④ 当日の確定した出発リストが昼近くにならなければ、手元に届かないとか、一発決勝から突然予選が行われることになるなど、大会運営はあまりよいとはいえなかった。ＩＳＭＧＦ．ＣＰ－ＩＳＲＡ．ＩＢＳＡ．ＩＳＯＤの各団体が、それぞれの立場で大会運営に参加しているようで、何となくバラバラという印象を受けた。

⑤ 選手村や競技場には大変多くのボランティアがいたので、とても助かった。

⑥ 今回のような大きな大会に参加すると様々な面で刺激を受け、プラスになることが多い。そこで、もっと多くの人にこのような機会があったらよいと思う。

視覚障害者柔道部門報告

柔道監督　中川　一彦

視覚障害者の柔道競技は、１９７６年、パラリンピックに視覚障害者が参加するようになってから初めて今回取り入れられたものです。

１９８１年に組織された国際盲人スポーツ協会は、ヨーロッパ諸国の視覚障害者柔道の普及状況と更なる発展を期待して、１９８６年、視覚障害者柔道規則を定め、今回のパラリンピックの一種目としたのでした。

柔道大会は、１０月２３日、日曜日、ソウル郊外のサンムスポーツ競技場内のソンスン体育館で、盧泰愚大統領・同夫人をお迎えして開かれました。

各階級３ケ国以上の出場がない場合には、当該階級の競技は成立しないとの申し合わせのもとでしたが、９ケ国から３３人の選手が集い、６階級の競技が、トーナメント形式で実施されました。

出場国と各階級別人数は表１の通りですが、９５Ｋｇ超級は、前述の様なこともあり、実際には、－９５Ｋｇ級の選手も一部一緒にした形で実施されました。（表１）

表１．参加国と各階級別参加選手数

国別参加選手数 ＼ 階級・kg	－６０	－６５	－７１	－７８	－８６	＋９５
アメリカ　４人	○	○		○		○
イギリス　６人	○	○	○	○	○	○
イタリア　１人						○
カナダ　２人		○	○			
韓国　５人	○	○	○	○	○	
スウェーデン　１人					○	
日本　６人	○	○	○	○	○	○
フランス　３人		○	○		○	
ブラジル　５人	○	○	○		○	○
計　３３人	5	7	6	4	6	5

残念ながら実際の出場の機会のなかった青木選手を含め、７人の日本選手は、毎年秋、講道館で行なわれている全日本視覚障害者柔道大会第２回大会（１９８７年）の各階級優勝者です。（省略 S63スポ協会 事業概要参照 ）

本大会でも、表２の様に、出場６階級全てでメダルを獲得し、金４ケ、銀２ケの好成績を納めることが出来ました。

選手達は、持てる技術を十分に発揮することが出来たわけですが、これは、開会式から大会当日までの９日間、強い期待と不安の中、チームワーク良く、練習を繰り返し、精進努力した賜だと思います。

今後は、後輩を育てることとともに、外国にしつこくて速い、型にとらわれることなくたくましい気迫あふれる柔道にもすくむことのないよう、上半身、殊に腕力を強めることも大切でしょう。また、国際的な要請に応え、柔道を生んだ国として、国際大会へ積極的に参加することはもちろんのこと、

…… 水　泳　選　手 ……

大阪市　　桑村　成子

１００Ｍフリー、ラストのターンですべては終わった。心の中で、ありがとう、ありがとう、と思いながら、一生懸命泳いだ。

ふり返ってみると、ソウルパラリンピックに出場できるかも知れない、ということを聞いてから１１ケ月。聞かされたとき、食事がのどを通らなかったことを憶えている。まさか機能障害が行けるとは、思っていなかったからである。

月日がたつにつれて、嬉しさがこみ上げてきた。そして、私の障害でも国際大会に行けるということが、同じ障害の人にわかっただけでも、しあわせなことである。

結婚と同時に、練習がスタートした。主婦業、仕事、水泳と３役をこなすのに、とても苦しかった。主人と何回、けんかをしたことか。しかし、主人の深い愛情と協力と理解があったからこそ、ここまでやってこれたと思っている。

水泳に関して言えば、日本はまだまだおくれていると思う。それは、何が原因なのだろう。体形が違うということもあるが、練習の内容にも、問題がありそうな気がする。世界のトップスイマー達は、年齢が若い。４年後のバロセロナにむけて、日本の青年たちに、今から頑張ってほしい。そして、私も、少しでも近ずける様、努力していきたいと思う。

韓国の皆さんに、とてもお世話になり、感謝の気持で一杯です。

そして、世界の同じ障害を持つ人々に出会えて嬉しく思うと同時に、“生きる”ということを、再び考えさせられたような気がする。

一生に一度しかない“ソウルパラリンピック”すばらしい思い出を有難うございました。

広島県　　小丸　裕子

パラリンピック日本代表に決まって、大会まで悔いのないように練習してきたが、本番でその力を発揮できるか不安でいっぱいだった。今、自分の持っている記録では世界記録にはほど遠く、日本を出る前に、自分で目標を立てたエントリー４種目の中で一つでも予選、決勝、６位入賞できればベスト。

１０月２０日　１００ｍFreestyle が自分の目標どうりに行ったので、自分自身満足しているし、自分ながらよく頑張ったと思う。やはり、世界のレベレは高いと思った。

二度目の国際大会に参加して感じることは、切断の女子の参加人数が少ない。もっともっと出て来て欲しい。パラリンピックに参加してよかったこと。トップレベルの泳ぎを見ることができた。二年前フェスピックで一緒に泳いだ選手と再会した。

いろいろな体験を回りの仲間たちに話していきたいと思う。

神戸市　　川田　真貴子

印象が強かった開会式。
メインスタジアムに入ってすぐ目にとびこんできた。
スタンドの大観衆。
一瞬息をのみこんで
感動のあまり、涙が出そうでした。
流れそうになるのを、こらえながら、
こんなに多勢集まってきてくれた
ハングラサラムに感謝して
行進しました。
一日、一日が
競技のある日はつらかったけれど、
とても大切に思えて
過ぎて行くのが残念でなりませんでした。
思い出がいっぱいいの韓国
韓国のパラリンピックに来て、
本当によかったと思います。キムチもおいしい！

ぜ弓に　かんぱい！

愛知県　　鈴木　敬乃

今回、このパラリンピックに参加することが出来て本当によかったと思います。５年前に障害者となり、リハビリの為に水泳を初めて３年半ですが、自分が健康な身体だった時より充実した日々を送っていると思います。特にこの半年間は練習がきびしく、とてもいやな日が続きましたが、大会が終わってみると今迄の辛さがウソの様に晴ばれした気分でいっぱいです。今迄自分が障害者だからということで、甘えた考えを持っていましたが、世界のいろいろな障害者が一生懸命にスポーツに参加している姿を見ていると深く反省させられました。

それから車椅子の人々は世界共通してにぎやかで、尚かつ元気いっぱいの人が多いのにビックリしています。日本ももう少し障害者スポーツに対して、同情の目で見るのではなく、選手を育ててほしいと思います。

神戸市　　福生　明美

初めての世界大会で日本代表としてスタート台に立つ最初の種目、２００ｍ個人メドレーの時の緊張感は忘れられない。予定の日にちと種目がソウルに来てガラリと変わってしまったので、最初は焦りと心配で困ったけれど、メインプールがとても泳ぎやすかったことや、超満員の大きな声援があったせいか四種目ともファイナルまで残り、自己ベストを出せたことはすごくうれしい。

世界のレベルは思っていた通り、いやそれ以上高かったけれど、「新たな目標へチャレンジしたい」という意欲がわいてきた。まずは来年のフェスピックを目ざし、四年後のバロセロナまで水泳を続けようと思う。そして、今回金メダルを１２個もとったアメリカのゾーンさんに１秒でも追いつきたい。彼女の明るい笑いと、コールルームでぬいぐるみをだいてウォークマンを聞く姿は忘れられない。言葉は通じなくても、多くの国のいろいろな人との出会いがあったことは試合以上に学んだ大切なことのように思う。日本に帰ったら、今回の大会のいろいろな感動を大勢の人たちに話し、共に頑張りたいと思う。

福岡市　　戸内　久子

１９８８年、１０月１６日、日曜日、私にとって一番の日となりました。

自由形４００M、記録７分５８秒と私には思いもよらない自己新が出て、その上、銅メダル、本当に考えもしなかった出来事に、自分自身が唖然としてしまい、うれしさに泣いてしまいました。

一つの出来事に感動していると、又、一つと次々に感動の連続です。色々な障害者が各国から参加し、良い記録を出していくことに対して、自分の今までの練習のやり方では、だめだと考えさせられました。今回、１０月１１日からの合宿に参加して、今日まで色々な事を感じ、又、経験して勉強になることばかりでした。一秒という記録の壁の大きさを特に痛感しています。

又、このような大会に出ることが出来るなら、もう一度参加したいです。

今回、色々な方にお世話いただき、ありがとうございました。

埼玉県　　三浦　明子

ソウルに来て、建物がいっぱいあるし、毎日天気もいいし、気持がいいです。でも、夕方と朝は、ひんやりとするけれど、食べものがおいしくて、とくにキムチが最高でした。それと、外国に選手２人と友達に成りました。その人はかっこいい人です。

１０月２０日は、まちにまった水泳でした。自由形１００Mに出ましたが、みんな速い人ばかりでとてもかないませんでした。自分のせいいっぱいの力を出して一生懸命最後までがんばりました。

参加出来ただけで満足です。こんなすばらしい会場で泳げるとは思いませんでした。やっぱり、来てよかったです。

奈良県　　金堂　恵子

私にとって昨年の冬は今までに一番苦しい冬でした。それまではずっと家にいたので、手の不随意運動で夜眠れなくても、昼間よくうたたねをしたので、そんなに苦痛ではありませんでした。それが昨年は施設に入ったので昼間は眠れない生活になり、それにプラスパラリンピックの練習で身体がとても疲れ、眠くてしかたないのに、手が動いて眠れない毎日でした。何度死のうと思ったかわかりません。その時、大きな支えだったのは、夜空でいつも見守ってくれていたお月さんとソウルパラリンピックでした。

この冬を乗り越えたら、もしもパラリンピックに出場出来たら、きっと何かが変わると信じて、身体を限界まで動かしトレーニングしました。

そして、結果は決勝レースであんなことになってしまい、日本代表として申し訳ないのひと言です。本当にすみませんでした。

でも、私自身は、今何一つ後悔していません。それより毎晩静かに月を見ながら、毎日良く動いてくれる身体に感謝しています。と同時に昨年の冬を思い出し、“生きていてよかった”と思っています。本当に生きていてよかった。

私の好きな言葉は“人間の努力は無限”ですが、今、又それを体で感じています。　地元に帰りましたら、今の感激を一人でも多くの人に伝え、今後一人でも多くの障害を持つ人がこの幸せを味わえるよう先輩として（頼りないけれど）共に頑張っていきたいです。

そして、私自身は、もう一度一から出直して、出来ることならもう一度この大会に出たいです。今の私は新しい夢と希望でいっぱいです。

最後になりましたが、役員のみなさま本当にありがとうございました。

そして、今後ともよろしくお願いいたします。

京都市　　藤田　　扇

ソウルに来てからいろいろなアクシデントがあった。第１番目は、ばけつ三杯ぐらいの水がバスルームの天井から落ちてきて、ボランティアの人に英語で話して修理してもらったが、はたして２週間ここで生活できるのだろうかと、心配になったこと。２番目はトイレがつまり、故障の様子を説明するのに苦労したこと。３番目は、トイレットペーパーがなくなったのでもらいにいったが、英語がわからない人ばかりで理解してもらうのに苦労したこと。その結果、１番最初に覚えた韓国語が「トイレットペーパー＝ハージャンジー」だった。今思えば、なかなか楽しかった。

今回の遠征での反省すべき点は、①体調をくずしてしまい、先生方にご迷惑をおかけしたこと。②チームのなかで積極的に行動できなかったこと。③自己の残存能力を再確認出来たが、発揮できなかったので残念でした。④語学を自分の為のみに生かして、チームの為に生かしきれなかったこと。

嬉しかったことは、①オリンピックプールで泳げたこと。水深が身体障害者用のプールと違い、あまりにも深くて困惑したが、泳ぎやすいプールで嬉しかった。②多くの人々に応援していただき、とても嬉しかった。今後の日常生活の励みになりました。③外国選手とのバッチ交換や日常生活につい

て、例えば、(1)障害の原因 (2)仕事 (3)練習状況etc を世界共通語で会話が不自由しないで意志を伝えることができて、とても嬉しかった。それにともない、いろいろな人たちとお友達になり、自分の世界がとても広くなった。

現スタッフ御苦労を見るたびに、アシスタント・スタッフを１～２名加えることで、仕事の軽減とチーム全体の機能アップにつながるのではないでしょうか。（特に今回水泳は、２会場に分かれたため。）

第８回ソウル・パラリンピック大会に選手として参加する機会を与えて下さった諸先生はじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

今回のよき経験を日常生活に生かしたいと強く決意を新たにしております。いろいろお世話になりましてありがとうございました。

東京都　　小林　和代

ソウルパラリンピックに出場して大変勉強になりました。それは、日本では、同じ障害の程度の人がいないので、やる気が起こりませんでした。自己記録を２秒も更新したのに４位とは、くやしいのと練習の意欲が湧いてきました。こんなことでは日本の障害者の水泳はまだまだ世界に通用しないと感じました。これからは、もっともっと練習を重ね、つらいときはあのソウルの青い空を思い出して頑張りたいと思います。

関係者の皆々様本当にありがとううございました。

福岡県　　志賀　昌夫

水泳を始めてから３年ほどになります。きっかけとしては、一人のスイマーに出会ったことでした。私は、両足切断でクロールは出来ないと思っていましたが上半身のみで泳ぐスイマーに感銘を受け又水泳の楽しさと、トレーニングとしての水泳の良さを知ることが出来ました。

その内に、全国大会出場となりスポーツとしての水泳を知り多くのコーチ、スポーツにとりくむ障害者を知ることが出来ました。ただ国内では両足切断は見ることが少なく、タイムが悪くてもあたりまえだと思っていました。今回ソウルパラリンピックに出場して感じたことは、世界は非常に速く、私自身練習計画の甘さと共に競技回数の不足によって、満足なタイムが出ず心残りに思っています。しかし、今回、同じ障害者に出会うことが出来、友好を深めることが出来ました。福岡に帰り、多くの出会いを求め障害者スポーツに尽くしたいと思います。

最後になりましたが、色々とご指導して下さった水泳関係者の皆様大変ありがとうございました。

名古屋市　　杉浦　秀雄

今回、このようなすばらしい大会に出場することが出来、とてもうれしく思うとともにとても良い経験となった。世界のレベルがこれほど高いとは、データではある程度わかっていたつもりであったが、こうして目のあたりにすると、ただただ驚くばかりであった。

それにしても残念なのは、回りがどうであれ自分の泳ぎが出来なかったことだ。特に自由形の成績は、まったく納得できない結果となった。

また今大会を通じて感じたことは、コンディション作りの難しさという事でした。期間は長い、慣れない海外生活等、生活リズムのまったく違う中で競技をする事の大変さを痛感しました。

競技にあっては、反省することばかりであるが、今大会は実に思い出深い、楽しい大会となった。韓国の人々の親切なもてなしには、とても感動したし、これほどまでにしてくれるとは夢にも思いませんでした。

これからは、この経験を基に、後進の指導等をするとともに、自分自身も、気分一新、新しいスタートを切りたいと思います。

大阪府　　髙田　義昭

心に期す事大いにあり

水泳を始め約１２年経ちます。当初は健康の為の水泳であって、競泳をする力はありませんでした。

８年前オランダで開かれたアーヘン大会に出場し、本人が考えている記録と現実は大変ちがって驚き又感銘を受けました。

今回の出場には心に期するものが大いにあり、それなりの練習をしたつもりでしたが、世界の壁は厚く外国選手は健常者におとらぬすばらしいタイムであり、私個人今までにやって来た事が生かされなく、満足なタイムが出せず心残りに思う事多々あり。この教訓を若き次代を荷うスイマー達に教え、励まし、世界大会に出場した各国の現状を知らせてやることが、今後の私の責務だと痛感し、今後とも頑張って行きたいと思う。

最後になりましたが、昨年の１２月より色々と御指導下さった水泳関係者のコーチの皆様大変ありがとうございました。

今後の日本身体障害者水泳連盟の発展を望者であります。

カム　サ　ハム　ニ　ダ

長野県　　加藤　　正

練習をやらずに、この国際大会に出場し一番感じることは、外国勢の強さだった。自分も身長では負けてはいないのだが、ウェイトの違いに驚いた。特に上半身の筋肉のものすごさ、初めての国際大会だったため見るもの全てに驚きを感じたが、特に特に感じたのは筋力の差である。あれだけの身長であれだけの筋力があれだ、あれだけの記録が出るに違いない。自分もこの国際大会をステップにして、４年後のバロセロナに出場できるように筋力、体力ともに強くしたい。今回の大会にくる前、まったくプレッシャーを感じなかったし、日本の大会の時にあるような緊張感がまったくなかった。それはきっとあきらめがあったからだろう。一番印象に残った試合は、最後に泳いだリレーである。１００×４Ｆｒｅｅリレーは決勝に残ったので最高にうれしかった。

この時思った事は、やはり試合に出るのだったら、決勝に残らなければおもしろくない。何百人という人の前で泳ぐということは、気持が良かった。

この快感を味わう為に、４年後スペインに行けるよう、これから頑張っていきたい。

愛知県　　岩月　富士雄

脚切断後奇しくも１０年、リハビリで始めた水泳も世界最大のイベントに参加でき、尚、当地で４７歳の誕生を迎える事が出来とても幸せです。競技に於ける成績とか、順位等々水準の違いは国情の違いでもあり、それでも同じプールで同じ様に競技が出来、生涯再び訪れる事はないでしょう。この機会に深く感謝しております。

日本語しか話したことのない私にも選手村入村以来、韓国後の挨拶を覚え、日本後、韓国後、出来ない英語でのコミュニケーションは競技の合間とか、食事の待ち時間とかに他国の人と数多くの友達が生まれ、とても貴重な体験が出来、異国の人と云えども、皆同じ血が通っているんだなあと思いました。

この大会に臨むにあったて忙しい業務の間に、人以上に練習を積み重ねて来たものと自負しております。本番初日の４００M自由形は自分のレースができず、自らのワースト記録になってしまいましたが、他の３種目はいずれも自己ベストの更新が出来満足しています。又予定外の２００M自由形リレーの一員に加えて頂き、結果は予選を通過することが出来ませんでしたが、自分のラップは今迄にない好タイムにびっくりしています。このリレーに始めに予定されていた選手の方に申し訳ありませんでしたが、私の誕生日のメモリアルレースになり、皆様に感謝しています。

終わりに本大会にご推薦下さいました、豊田市と愛知県を始め日身協他又数多くの役員の皆様、選手の皆様、そして今日まで御指導下さいました監督、コーチの方々に重ね重ね御礼申し上げます。

奈良県　　茂木　秀昭

１６日から２３日まで競技があり、その間、驚きととまどいがありました。まず一つは競技時間の変更があまりにも多いこと、一つは、決勝が予選になったり、又、決勝になったりコースが変更になったり、とにかく、コーチ選手がふりまわされている状態です。これでは選手も充分な力は出せないではないかと思いました。こうしてオリンピック会場をそのまま使わせて頂き、設備もととのった中で泳げたことは、本当にすばらしい事でありました。ですが、その内容というか運営があいまいだったのではないかと思いました。それが時間の変更とかに表れてきたのだと思います。選手が充分な力をだせるような配慮をする。競技するのは選手であって運営する人ではない。

それからコーチには、試合前に身体をほぐして頂きありがとうございました。他の国では、コーチの他に選手の体調を整えるトレーナーとかマッサージをしてくれるトレナーがいるようです。そういう専門の人がいることも大切でと思いました。自分のことですが今回こうした大会に出させて頂いて、結果としてメダルは取れなくともベストを尽くしました。この大会に臨んで１月頃から一般のスイミングスクールに通って練習してきました。私はこの一般の中で泳ぐということが大変意義のあることだと思いました。毎日小学生が見ていましたが、この泳いでいるのを見るというのは、少しは、身体障害者の理解につながるのではないかと思います。

今回の大会は、４年前の大会とはえらい違いであったようです。とにかく、他の国の人は速い、まったくの驚きでした。片手、片足の人、両足だけの人が私などより１０秒も２０秒も速い。おそらくこういった人達は、小さい頃より泳いでいて、しかも教える人がいて、充分な練習の場所と時間があるのではないかと思います。しかも若い、１４歳もいる、若すぎるのではないか。反対に日本は歳をとりすぎてるのではないか。日本にはもっと速い人がいるのではないかと思います。そういった速い人がどんどん出て欲しいと思います。とにかく、もうすぐ無事に終わろうとしています。心配していたゲリもなく、毎日ふとる程の食事をして、韓国の人たちにも私たちが充分泳げるような配慮をして頂いたおけげだと思います。

ありがとうございました。

岐阜県　　本間　裕幸

１０月１１日大阪に集合してから、今日２４日で２週間、あっというまに過ぎてしまった。今、思うと長いようで短いような２週間であった。

自分の競技をふりかえってみると、１００M平泳ぎが初レースということもあり、結果として不満が残っているが、全体としては、こんなところかなあ、というところである。［ 全種目　長水路Ｂｅｓｔ ］

ただ、国際レベルから考えると、まだまだ世界は遠いというところです。

ヨーロッパ各国、カナダ、オーストラリア、とにかく若い、そして速い。

今のままでは何年たっても同じこと、ますます差が開くだけ。個人のレベルではなく全体（行政）として、日本の障害者の水泳というものを考え直す時期にきていると思われます。

私個人としては、、この大会に出場したことにより、各クラスの実力、国際レベルを知ることができ、その他、日本にいるだけでは考えることもできないような人々を見ることができたり、すばらしい機会であったと思います。又、同じ国内にいながら時間がなくて話しができなかった人々とも、この大会でゆっくり会話を楽しむことができ、非常に楽しい２週間でした。このような機会を与えてくれた人たちに感謝します。又、中森コーチ、他のコーチ達にもお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

最後に、この大会の運営についてですが、もう少し選手の身になった設定をしてほしいものです。国際レベルの大会なら、マニュアルも統一して、どの国で大会が行われても、同じようにできるようにすべきです。また、メディカルチェックにしても、もう一度考えなおす必要があります。外からみていても、かなりいいかげんのようにみえます。日本選手の中にもコーチ公認のインチキがいるように聞いています。もしそうだとしたら、はずかしいものです。もう一度、大会そのものをきちんと整理したほうがいいように思えました。

志賀県　　知念　　悟志

怒り　驚き　大いなる悔しさ　１２０パーセントあり

開会式の感激も９５パーセント吹き飛んでしまった。日本代表が聞いてあきれる自分の記録。日本の恥だ。

しかし、自分の今後の人生に大きな目標が出来たことは確かであり、この尽では終わりたくない気持大いにあります。次回の大会に照準を合せ出場出来なくても、今回の３位以内、入賞タイムに迫りたいです。自分の情けないタイム、怒りを自分自身の心の糧とし、表彰台に昇れなかった悔しさを日々引き連れていきたい。

年令がどうした、タイムが縮まれば、こっちの勝ちだ。

名古屋市　　柴山　英志

自分の水泳歴は７年で、それ以前は泳げなくて身体障害者スポーツセンターが出来、それからプールで練習をして昭和６０年には全国身体障害者スポーツ大会に参加出来、そして、今、この大会に参加出来たことはほんとうにうれしく思っています。

開会式ではオリンピックと同じ催し物をみて、なにか心うたれるものがありました。

大会が始まるまでは自分の障害クラス（Ｌ５）は世界的に少ないと思っていましたが、大会が始まりプログラムを見たら決勝戦のみでなく、ほとんどの競技で予選があり、同じ障害が他の国にもたくさんいることを知りました。そして自分の競技のレベルが低すぎ、１年ほど前からこの大会に向けて練習をしてきたのですが、これほどレベルが高いと思っていませんでした。同じ障害なのにどうしてあんなに早く泳げるのか、この目で見て少しは勉強になりました。障害の重い人がたくさんいて、自分の記録よりもすごく早く泳ぐ人ばかりで、ほんとうにびっくりしました。日本でも障害の重い人は、まだまだスポーツをすることは少ないと思いますが、これからはこの大会で見たことをみんなに話し、もっと障害者がスポーツに参加できるようにしたいと思っております。

最後に、役員、関係者のみなさん、ほんとうにこんな大きな大会に参加させていただいてたいへんうれしく思っております。　ありがとうございました。

静岡県　　宮崎　　健

１０月１３日いよいよソウルへ出発だ、成田発１０：００　９５１便、２時間ほどでキンポー空港に着いた。歓迎がすごいかと思いきや、なにもなく白バイの先導で選手村へ向かった。別に異国へ来たとは感ぜず選手村に入村した。

国は変われども、障害のあるもの同志せいいっぱい競技で技を競い合おうぜと心の中で思い、身がひきしまるのをおぼえた。こちらに来るまでに結団式や飛行機、バスに乗り、いささか腰と背中が重くなってきていた。開会式では、９月に行われたセレモニーがそのまま再現されたとの事だった。スタジアムに入場してすぐの所に伊東市から観戦に来た人たちが見えた。おたがいが手を振り合って認めたことに感激した。１０万人からの大観衆の中での事だったのでよけいの事だった。

競技でのことは、各種目自分の出せる力は十分に出すことが出来たと思う。しかし、１種目だけ、バタフライだけはターンがうまくいかなかったのに加え、タッチもまずかったらしく、タイムが遅くなってしまった。これも全力で泳ぎきったことで、悔いは残らなかった。

一番うれしく思っているのが陸上の１５００M走だ。今年に入って水泳をメインに練習して来たのにもかかわらず、自己記録が出るとは思ってもいなかったので、ひとしおだった。エントリー種目を決めるときに無理をいっておいて良かった。メインスタジアムに自分のスパイクをきざむことができて、また、鈴木大地、ビオンディといった選手の泳いだプールを使用できたのも一生の思い出になることだろう。　関係者の方々どうも有がとうございました。

東京都　　佐野　由幸

私が見た人、又聞いた事すべて初体験であり、この２週間という長いようで短い間に教えられたことを、日本に帰り後輩に少しでも役に立つようにしたい。

又、世界の水泳のレベルの高さを肌で感じた。

感動、感動の２週間であった。

大阪市　　秋山　一秀

今回１９８８ソウルパラリンピックの水泳チームに参加して、主に切断、機能障害の水泳競技を体験したが、一番強烈に受けた印象は外国勢、特にスウェーデン、英国、カナダ、フランス、米国等の西欧先進国の選手のもつパワーの凄さであった。彼等はリハビリスポーツの領域を卒業して完全な競技スポーツの中から選ばれた選手である。そして、彼等を育て、選ぶ組織が如何なるものか、その社会制度、市民レベルでの障害者スポーツに対する支援体制が如何なるものか非常に興味を感じる。小生はここ数年、障害者の水泳競技選手として、又競技大会の運営に参加して、わが国の障害者の水泳界の状況は大略理解している積りであるが、我国のレベルはまだまだ「普及期」を脱していないと感じる。最近各地に障害者を受け入れるスポーツ施設が増えつつあるが、その恩恵に浴せるのはまだまだ一部でしかない。即ち、泳げる環境は点でしかない。この「点」を面に拡げ全国各地から勝ち残った者が選ばれるような組織、制度が出来なければ、西欧勢には対抗できないでであろう。

小生の競技について言えば、今春、候補選手に挙げられたとき、自分の泳力からしてＪＡＰＡＮを代表するには恥ずかしいタイムであるとの認識から、参加すべきか否か一時は相当迷ったが、世界に自分と同じ障害のスイマーが居るか否か、その人はどんな泳ぎをするのかを見極めよう、タイムは自己ベストを更新しよう、との決意で練習に入った。

結果として、Ｌ１クラス、１００m、５０m共、５人中５番のタイムも１位の２倍以上かかったが、これは「 障害が同じでない 」事によると思う。リュウマチ後遺症の両上下肢機能障害は居なかった。しかし、共に泳いだ両大腿切断、両前腕切断の人、即ち、両上腕だけの人でも「自分より速く泳ぐ」事には驚かされた。タイムは最下位ではあったが、自己新を出せたこと、世界にも自分と同じ障害のスイマーが居ないことから、、自分は世界一だと自負したい。

今回、自分の泳力で「 ＪＡＰＡＮ　ＴＥＡＭ 」に参加させて頂き、世界の障害者のスイマーをこの目で見せて頂いた事は、今後の自分の人生の大きな糧となると思う。身体上の障害に突き当たったとき、ソウルで泳いだ仲間のパワーに勇気付けられるだろう。　ありがとうございました。

広島市　　沖本　昭彦

想像もしていなかったパラリンッピック出場、こんな大舞台で自分の力が出し切れるかどうか、始まるまでは不安でいっぱいであったが、今こうして、すべてが終わってふりかえってみると、満足感でいっぱいである。なぜなら、３位入賞こそできなかったけれど、自分のイメージどうりの水泳ができたし、出場種目すべてにベストタイムが出せたからだ。まだまだ、やれるという自信のようなものができた、もう少し頑張ってみようと思う。

また、外国選手の水泳を見て、、はっきりいって、大変なショックを受けた。日本では、見たことのないような障害の選手が、すばらしいタイムで泳いでいた。彼らは、自分に残された能力を最大限に引き出すような練習を、毎日繰り返してきているのだろう。彼らの努力は、いうまでもないが、まわりの環境もすばらしく良いのだと思う。日本では、障害者スポーツ、特に水泳に関しては競技としてとらえて取り組んでいる人はまだまだ少ない。そのように、彼らの泳ぎをみていたら、思えてしかたない。

これから、日本に帰って、もう一度一から出直しのつもりで頑張ってみたい。そして、出来ることなら、もう一度パラリンピックに出場してみたいと思った。

大阪市　　和田　行博

ショック　そして　ファイト

パラリンピック参加を顧みて、一言でいえば「 ショック そして ファイト 」である。欧米各国選手の体力、食欲、競技に対する執念、組織力、自己表現等どれをとっても、私が想像していたものをはるかにオーバーしていた。

いわゆる、カルチャーショックである。

チームメイトもたぶん同じであったろう。それが証拠に初日の４００Mフリースタイルで、欧米選手に引きずられるように日本選手は、スタート５０Mで完全に自分のペースを失っていた。その時の泳ぎ終わった選手の話しでは「そんなに飛ばしたつもりはなかったはずじゃのに！」。しかし、ラップタイムを見れば、完全にオーバーペースであったのである。

私は試合当日の練習時に、ペースを確認していたので思い通りに泳げ、自己ベストを出し満足している。これは年の功であっただろうか！　しかし、優勝者とのタイム差は１分３０秒もついてしまった。優勝者は健常者に負けない立派なタイムであった。

しかし、私の身体の中に残るショックは何か！ 彼らの若さに対するひがみか ！障害者のおかれているいろいろな環境のせいだろうか！ いったい日本選手と、どのように比較すればよいのか！ 考えこんでしまう。しかし、気持の中で今までと違った、熱く感じるものがある。

４０歳の身体に新しいファイトが生まれていくのをおぼえ、若く新しい者が力をつけ、育ってくるまで水泳をやりつづけて行くつもりである。

東京都　　髙梨　秀夫

この大会に選ばれた時はとびあがって喜んだ。しかしすぐ後、半月も仕事を休む、仕事を休む、仕事を休む……。

行かせてもらいます、という返事を出すまでずいぶん悩んだ。

しかし、今思っている。来てよかった。本当によかった。

チャンシル、オリンピックプールをわかせた各国のすばらしい仲間たちを見ていて、何度鳥肌が立ったことだろう。残されている身体の機能を目いっぱいつかって泳いでいる姿を見て感動した。

この感動を日本に帰ってから、仲間たちにどうやって伝えようか、今考えている。自分の反省点はいっぱいありすぎて、まず私の嫌いなウェイトトレーニングをやりパワーアップを計る。できたら長水路で泳ぎたいものだ。

すばらしいルームメイト達、その人たちから学んだ点は多い。私も、今年で４１歳、水泳は一生続けて行こうといままでも思っていたが、この大会に出させてもらい、その思いをより深くした。

役員の方々本当におつかれさま、そしてありがとうございました。

大阪市　　大堀　豪志

ソウルパラリンピックに出場した感想は、出場できるだけでも光栄なことなのにメダルまで取れて、本当に来て良かったなということと、外人のレベルの高さに驚いたという２点が上げられると思う。体格では勝てない。ということはパワーを重視する水泳競技においてメダルを取るには、ある程度ルールがきびしくて、テクニックを必要とする平泳ぎしかない。と思って練習してきた成果が出せて、自分なりに満足しています。タイムも長水路の自己ベストだったし、申し分ありません。これからはこの貴重な体験を生かして新しい人生のスタートを切りたいと思っています。また、ぼくを含めて日本選手団を陰からささえてくれた役員、コーチの皆様とはげましてくれた仲間に感謝している次第です。

パラリンピックの規模は全国大会とはくらべものにならないくらい大きく、施設も素晴らしい物ばかりでびっくりしました。ちょっと、競技の日程が急に変わったり、進行が悪かったりというトラブルはありましたが、こういうことはよくあることらしいですが、その日のために調整してきた選手にとって大変困るので、こういうことがないようになればいいなと思いました。

最後にもう一言、「ありがとうございました。」

福岡市　　寺尾　芳隆

一言

くやしいーよー

「世界のレベルは予想以上だ」これが今回参加しての印象です。

国をあげてのバックアップや、年金、賞金など日本には不利な状況が多すぎるのも確かですが、やはり、自分のような精神的な弱さによるところも大きいみたいです。

しかし、自分の得意な種目で、今回の最悪とも言えるコンディションにも関わらず、メダルにまで手がとどくところまでいったということは、これから先の人生や、あとに続く人達の為に、少しでもプラスになることがあるような気がして、その点では、大きな収穫が有ったと思います。このことをきかっけに障害をもつ人達の後押しのようなことが出来ればいいのだけれど。

最後になりましたが、今回お世話して下さいました団長さん、監督さん、コーチの先生方、夜もろくろく寝ないでお世話頂き本当にありがとうございました。

ご恩は一生忘れず、後輩のためにつくしたいと思います。

愛知県　　髙須　幸司

おそらく、パラリンピック史上最大の大会と思われる今大会に参加する事ができて幸せに思います。

ある程度予想していたものの、これほどの規模になるなんて、思いもよらなかった。韓国の政府の熱意には驚いた。と同時に、ボランティアの人々の親切には頭が下がります。この大会に出場するために、自由時間のほどんど全てをつぎこんで練習してきたかいがありました。

競技の方は、今までのメンバーに新しい人が加わり増々、層が厚くなり上位入賞はむずかしいようになりました。その中で自分は、６種目に出場し５種目で自己記録の更新ができました。また、たった１つですが決勝に進出できたことも思い出に残り、今後のはげみになると思います。くやしいのは、一番得意なブレストで決勝進出を０．１７秒差でのがし、最終日自由形の競技でブレストを泳ぎタイムを１．３１秒伸ばした。そのタイムが２日目に出ていれば、楽に決勝進出が出来たのにと思います。外国の選手とくらべれば、パワー不足は否めません。

今後はトレーニングに中にウェイトトレーニングの比重を高めなくてはと思います。いろいろ反省点はあるものの、全体的に見れば普段の練習通りの力が出せたと、納得していますし、とても勉強になりました。ただ、リレー種目で、日本が車椅子のリレーが組めない程、車椅子の選手が少ないのが、とてもさみしい。いつかはリレーで出場したいと思います。

最後になりましたが、役員の皆様の御苦労に感謝します。

ありがとうございました。

大阪市　　平井　玲朗

1．開会式における聖火リレーのお母さんの車椅子を子供が押していたことを聞き感激し、目がしらが熱くなりました。
2．自分では精一杯泳いだのでてが、ベストが出ず残念でした。これは、大会前に背中を痛めたのと、生活環境の変化についていくのが精一杯で、レース前に疲れました。
3．目のみえない私の選手村での生活に、協力していただいた同室の方々に感謝いたします。
4．今日閉会式の感激をいつまでも忘れず、今大会での経験を人々に伝えたいと思っています。

長野県　　有賀　　正

この大会を振り返って、僕は次のことを感じました。

1．レースについて
① 世界はさすがにレベルが高く、飛込みの出来ない僕では勝てないということを痛感した。（５０M自由形は特に）
② バタフライ１００Mは、思わぬハプニングがありましたが、決勝に残り、予選のタイムを７．５秒縮めることができ、大きな自信になりました。

2．大会本部の運営について
① レースの時間が変わりすぎた。
② 本部と各国の連絡が不充分ではなかったか……（１００Mバタフライ．Ｂ２でフランスの選手が遅れてきたことなど）

3．その他
① ミニ合宿を滋賀だけでなく地方で組んで欲しかった。（経費は自己負担でもよい）
② 今後の目標は、ウェイトトレーニングをしっかりして４年後もう一度ねらいたい。

Ｔｈａｎｋ　Ｙｏｕ

広島市　　大谷　浩道

初めての国際大会は、おどろきと、とまどいの中で始まり、終わったような気がします。何をするにしても時間ばかりかかって、自分の思っている半分くらいしか動けなく、どうしていいのかわからない事ばかりでした。

プールでは大観衆の中で、自分の持っている全ての力が完全に出せた事に、とても満足しています。と同時に、世界のレベルの高さを見せつけられ、一層のはげみになりました。「 まだまだ、やればできる 」そんな気持で一杯です。

世界を相手にもう一度泳いで見たい！！

長いようで短かったソウル、本当にありがとうございました。

またコーチの先生方、本当にありがとうございました。